

東京満蒙開拓団資料集成

【編】東京の満蒙開拓団を知る会 ●揃定価：未定 ISBN978-4-8433-7412-2 C3321 A5 判上製／カバー装
★電子書籍版は KinoDen / Maruzen eBook Library のサービスでご購入になれます。

第1期：「ルンペン・プロレタリアート」の満洲農業移民関係資料 全2巻 2026年11月刊行予定

揃定価：本体 53,000 円＋税 ISBN978-4-8433-7413-9 C3321
(電子書籍版＝同時1アクセス：本体 58,300 円＋税／同時3アクセス：本体 116,600 円＋税)

- 1◆「ルンペン・プロレタリアート」の満洲農業移民関係資料 1 定価：本体 25,000 円＋税 ISBN978-4-8433-7414-6
(電子書籍版＝同時1アクセス：本体 27,500 円＋税／同時3アクセス：本体 55,000 円＋税)
- 2◆「ルンペン・プロレタリアート」の満洲農業移民関係資料 2 定価：本体 28,000 円＋税 ISBN978-4-8433-7415-3
(電子書籍版＝同時1アクセス：本体 30,800 円＋税／同時3アクセス：本体 61,600 円＋税)

【続刊予定】第2期：満洲移民送出機関・大陸の花嫁関係資料／第3期：学生の満洲移民―鏡泊学園関係資料
第4期：東京開拓団実態調査書・転業・戦争疎開移民・青少年義勇軍関係資料

本書の特色

- 1932年から36年にかけて、最初の農業移民団として125名を送り出した「天照園移民団」についての包括的な資料集。
- 世界恐慌下、東京の失業者の状況、「ルンペン・プロレタリアート」の満洲への送出、満洲での過酷な営農・組合の経営、敗戦後の逃避行、帰国後の再定住までの経緯の記録。
- 新聞・雑誌記事の抜粋、座談会、経営計画書・決算書、「満洲国」・満鉄・満拓公社、日本政府・東京都・東京府・東京市の公文書及び刊行物等の資料から自然災害との闘いや小作人を利用しての組合化など、経営の実態を示す。
- 巻末に関係年表、及び資料収集に当たった横山倭氏による解説を附す。

関連企画のご案内

東京満蒙開拓団 ゆまに学芸選書ULULA 5

【著】東京の満蒙開拓団を知る会 ●定価：本体 1,800 円＋税 ISBN978-4-8433-3940-4 C1321 四六判上製／カバー装

渡満とは何だったのか ―東京都満州開拓民の記録―

【編著】高橋健男 ●定価：本体 8,000 円＋税 ISBN978-4-8433-4360-9 C3021 A5 判上製／クロス装

※表紙写真：天照園試験移民団の食事風景（『天照園試験移民報告書』より）



〒101-0047
東京都千代田区内神田 2-7-6
TEL.03(5296)0491
FAX.03(5296)0493
https://www.yumani.co.jp
e-mail eigyou@yumani.co.jp



●特におすすめしたい方●

日本近現代史、日中・露・朝関係史、中国近現代史、メディア史、移民・移住史の研究者、大学及び研究機関の図書館、公共図書館など。

ゆまに書房 Tel.03(5296)0491 / Fax.03(5296)0493 年 月 日		取扱店
東京満蒙開拓団資料集成 第1期・全2巻		
揃定価：本体 53,000 円＋税 ISBN978-4-8433-7413-9 C3321		
セット		
ご注文書	お名前	
	ご住所	TEL ()

◆編◆東京の満蒙開拓団を知る会

東京満蒙開拓団 資料集成

第1期…「ルンペン・プロレタリアート」の満洲農業移民関係資料 全2巻

【続刊予定】

第2期…満洲移民送出機関・大陸の花嫁関係資料
第3期…学生の満洲移民―鏡泊学園関係資料
第4期…東京開拓団実態調査書・転業・戦争疎開移民・青少年義勇軍関係資料

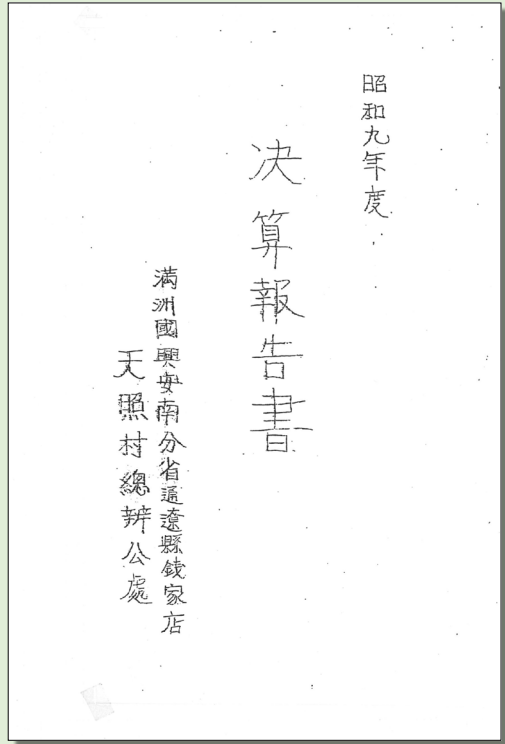
最初の満洲農業移民を送り出した深川の無宿者の施設「天照園」。世界恐慌による失業から渡満、満洲での農場経営の苦心そして敗戦後の逃避行までを物語る資料群。

ゆまに書房

◎プリント版 2026年11月刊行開始予定 ◎電子書籍版 2026年12月刊行開始予定

刊行にあたって

「昭和九年度 決算報告書」(天照村、一九三五年 第1巻所収)



1932年の「満洲国」成立から45年の敗戦までに、約45万人の日本人が「満蒙開拓団」として、満洲に入植したとされる(『満洲開拓史』)。道府県別に見ると、最も多かったのは長野県で約3万8千人、次いで山形県の約1万7千人と農業県が続くが、農民の少なかった東京府でも約1万1千人を送り出し、第9位となっている。このことは、非農業者からも多くの開拓団を送り出した歴史を語っている。

これらの東京から送り出された「満蒙開拓団」を編者らが知る発端は、都立大森高校の学園祭で配られた「興安東京荏原郷開拓団の最期」というパンフレットの入手であった。旧荏原区(現品川区)の武蔵小山商店街の人達で編成された満蒙開拓団が入植し、敗戦後の逃避行で約六百人の死亡者と行方不明者を出した事実衝撃を受けた。その後、有志で「東京の満蒙開拓団を知る会」を立ち上げ、散逸した資料の収集や関係者への証言取材などを行い、埋没していた多くの事実を発掘し明示した。

例えば、現在の江東区にあった無宿者向け施設「天照園」は、失業者を組織的に送り出していた。また、東京府は大田区が多摩川沿いの土地に「多摩川農民訓練所」を設置し、入植する農民に対する研修を行っていた。また、この訓練所は後に「多摩川女子拓務訓練所」と変更され、

所謂「大陸の花嫁」の研修施設として利用された。この他にも、日中戦争の展開に伴う経済政策により、転業を余儀なくされた人々が新たに開拓団として送り出されたなどである。

こうした調査の成果は2012年、『東京満蒙開拓団』として小社より刊行された。そして「知る会」はもう一つの目標として、同書の執筆のために収集した資料を後世の研究に供すべく『資料集成』の編纂を掲げていた。諸般の事情により多くの時日を要したが、今般刊行されることとなった。その構成は以下の通りである。

第1期:「ルンペン・プロレタリアート」の満洲農業移民関係資料

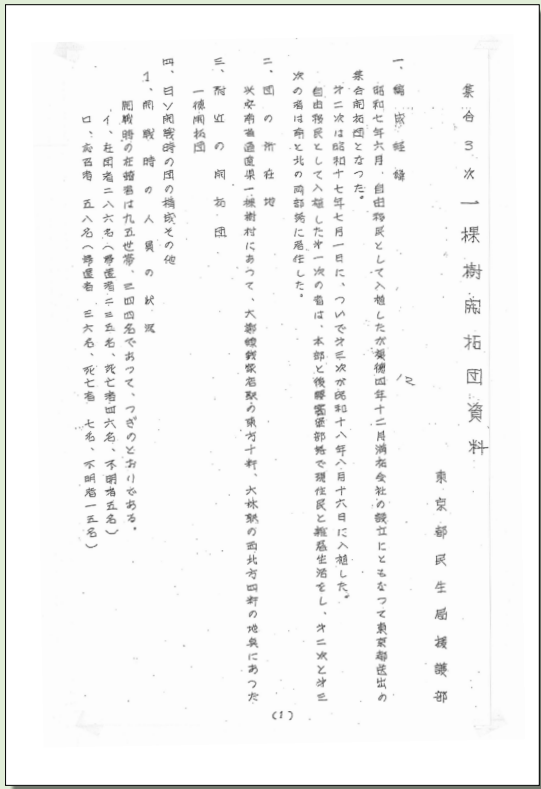
第2期: 満洲移民送出機関・大陸の花嫁関係資料

第3期: 学生の満洲移民―鏡泊学園関係資料

第4期: 東京開拓団実態調査書・転業・戦争疎開移民・青少年義勇軍関係資料

これらの資料は、当時の日本政府・東京府・東京市の公文書や刊行物、新聞・雑誌記事の抜粋、開拓団の資料、満鉄・軍等の報告書、戦後の東京都の調査資料や引揚者の回想録などから成るが、一部に入手困難なものも含んでいる。これらから『東京満蒙開拓団』に直接引用されたものはごく一部であり、資料をより詳細に検討すれば、未解明の側面が明らかになるだろう。同書の最後で「知る会」は同じ過ちを繰り返してはならないと強調しているが、本資料が歴史上の教訓として利用されることを願っている。

(ゆまに書房編集部)



「集合三次 一棵樹開拓団」(東京都民政局援護部、発行年不明、第2巻所収)

第1期:「ルンペン・プロレタリアート」の満洲農業移民関係資料(全2巻)の収録内容

●第1巻●

I 前史 ――渡満まで 1930年～1932年

1. 移民送出の背景と社会事業団体天照園

「所謂「ルムペン」の考察(一)、(二)」(『社会福利』1932年8月号・9月号)／畑野喜一郎『どん底に探る』(若き時代社、1932年10月)／「昭和八年度社会事業補助金」(東京市文書、1934年2月)／「塩崎町・浜園町附近の不健康住宅を撤去」(『市政週報』1941年10月25日)他

2. メディアの観た天照園移民

「集団移民の先頭を切りルンペン満洲へ 天照園から四十三名」(『東京朝日新聞』1932年6月9日)／「焼ちう酌んで盛宴 ルンペン君の送別会 秦憲兵司令官も激励」(『東京朝日新聞』1932年6月11日)／「満洲行ルンペン団送別会『我等は満洲の人柱 成功しても生きて帰らぬ』 秦憲兵司令官が送別の辞一席」(『読売新聞』1932年6月11日)／「『やがては満洲にルンペン天国』 天照園の青年廿五名けさ出発」(『読売新聞』1933年5月6日)／「天照園の満洲移民あす出発」(『読売新聞』1934年3月27日)他

II 満洲移民実習所の天照園移民 1932年6月～1935年

「深川から満洲へ 汗の生活に励む 更生ルンペン天照園 移民村を訪ふ」(『東京朝日新聞』1932年7月5日)／「お米にさよなら 支那人の常食へ 近く馬賊退治も勉強」(『東京朝日新聞』1932年7月5日)／「ルンペン村の天照園主帰る 半年振りに満洲から」(『東京朝日新聞』1932年12月2日)／「働かざるもの食ふべからず きのふのルンペン けふは満蒙の開拓者」(『大阪毎日新聞』1932年12月30日)／「天照園移民事情」(関東庁内務局農林課、1933年6月)

III 天照園村 ――通遼県錢家店 1933年3月29日～1934年2月(前編)

「天照園移住団」(永田綱『満洲移民前夜物語』1942年5月)／「自由移民の先鋒、天照園移民」(大東亜省『満洲開拓拾年史』1940年1月)／「満洲天照村業績並計画」(満洲天照村、1933年12月)／「天照園移民」[抜粋](『日滿統制経済と農業移民』日本学術振興会、1935年4月)／「昭和九年度決算報告書」(満洲国興安南分省通遼県錢家店天照村総弁公処、1935年4月)

●第2巻●

IV 天照園村 ――通遼県錢家店 1933年3月29日～1934年2月(後編)

「天照園移民調査報告」(『満洲農業移民方策』南満洲鉄道株式会社経済調査会、1936年8月)／「天照園訪問記」(満洲弘報協会編『満洲農業移民の概況』1936年9月)／「天照園移民村実地調査概要」(関東局移民衛生調査委員会、1937年1月)／「天照園農村」(『満洲移民問題と実績調査』日本学術振興会、1937年3月)／「天照園試験移民報告書」(東亜勸業株式会社、1934年1月)他

V 一棵樹開拓組合関係資料

「今ぢや大陸の地主 天照園拓士の座談会」(『東京朝日新聞』1940年10月7日・8日・9日)／「一棵樹開拓組合事情」(『集合開拓地調査状況』満洲帝国協和会中央本部、1940年12月)／「一棵樹開拓協同組合 康德七年度決算状況」(『満洲開拓年鑑』満洲国通信社、1941年8月)／畑野喜一郎「一棵樹開拓団を語る」(『開拓』1942年6月)／「集合三次一棵樹開拓団」[抜粋](東京都民生局援護部、発行年月不明)

VI 敗戦・引揚・開拓

畑野喜一郎「興安通遼県脱出記」(『満拓会誌』1984年1月)／畑野喜一郎「大同への道」(『大同組合設立三十周年記念誌』1981年4月)／『大同開拓設立50周年記念誌 絆』[抜粋](大同開拓農業協同組合、1999年)／「一棵樹会『会報』」(1978年3月～1981年3月)

VII 天照園移民関係年表・解説